

☆スポーツ振興大賞☆	
作品名 応募者	“三密を避けた”冒険レース ありのままの自然を活用した、アドベンチャーレースを全国で展開 有限会社エクストレモ（東京都墨田区）
<p>作品の概要</p> <p>アドベンチャーレースとは、3～4名が1チームとなり、様々なアウトドアアクティビティを駆使しながら、チームで協力してゴールを目指していくレースです。有限会社エクストレモは、アドベンチャーレースを中心とした様々な、アウトドアスポーツイベントを企画運営している会社で2005年に設立。これまで15年間で108回開催。現在は全国7か所で開催、16年目を迎える大会もあります。</p> <p>地域交流や地域活性に貢献しつつ、4つの目標（①環境保護・自然保護 ②地域の宣伝 ③地域経済の発展 ④地域住民の協力）を持って、開催しております。里山や林道、川や海など地域特有のコースがレースの舞台となります。参加者だけでなく地元の人も地域の再発見ができるよう心掛けております。また、レース中にその地域ならではの、チームで取り組む課題を行っております。クイズや伊勢海老のつかみ取り、地元の人々の似顔絵を描くなど、自然を体感するだけでなく、参加者と地元の人々が交流できる工夫をしております。ありのままの自然を楽しみに来る人がいることで、地元の人にも地域の再発見や自分の地域を知ることができ、アドベンチャーレースを通して、人と人がつながり、地域のことを自ら発信し浸透していくことが、次世代につながればと思います。</p>	

☆スポーツ振興賞（6作品）		
ス ポ ー ツ 庁 長 官 賞	作品名 応募者	防災スポーツ ～スポーツを通じて楽しく学ぶ防災学習プログラム 株式会社シンク（東京都千代田区）
	<p>作品の概要</p> <p>防災スポーツは、「楽しんで、競い合っ、身体で覚える」ことをテーマに、スポーツの持つ特性（遊戯性、運動、競争性）を活用し、災害時の自助・共助、災害後の復旧・復興（ボランティア）の際に想定されるシーンをスポーツ競技として体験し、日頃からスポーツを通じてもしもの時に生き抜く力を育みます。2018年から約2年の活動で延べ約2500名が参加しています。災害の多い日本で“スポーツ”として防災に取り組むことは、①子どもから大人まで幅広い世代に防災を身近に感じることができ、②災害に備える環境（社会）づくりを行うことにつながります。自分を守り、家族を守るために日常からスポーツを通して災害に備える。スポーツに親しみのない人の参加も期待でき、スポーツ実施率向上による健康増進寄与も目指しています。</p> <p>商業施設、企業、自治体、学校での導入実績やアスリートとの共同開催も有り、この取組はグッドデザイン賞、キッズデザイン賞を受賞し評価を得ています。今後はスポーツ庁「Sport in Life」プロジェクトの推進、スポーツ施設やスポーツ競技団体・クラブなどとの連携、海外展開も視野に活動を進めていきます。</p>	
観 光 庁 長 官 賞	作品名 応募者	瀬戸内海に浮かぶ本州西端の宝島 「くだまつ笠戸島アイランドトレイル」 くだまつ笠戸島アイランドトレイル実行委員会（山口県下松市）
	<p>作品の概要</p> <p>当実行委員会は、風光明媚な瀬戸内海国立公園・笠戸島を舞台としたトレイルランレース「くだまつ笠戸島アイランドトレイル」を開催。下松の魅力を国内外に広く発信するとともに交流人口の拡大や地域振興を目的とし、人・自然・地域との共生を目指す。2016年2月に第1回大会を開催。以降5年にわたり開催。県内外から来松されるランナー約900人に対し、総勢400人を超えるボランティアスタッフが関わり、地域一体となった下松ならではのおもてなしが人気。</p> <p>これまでトレイルラン専門誌「RUN+TRAIL」をはじめ地元テレビ局・新聞社に取り上げられる。2018</p>	

	<p>年大会の様子は、韓国の旅行雑誌「Travie5月号」に表紙と巻頭特集企画として掲載。翌2019年は、韓国でプロモーションを実施。韓国人ランナー17人がエントリーした。</p> <p>2020年大会では、国民宿舎 大城を大会前日から貸し切り、オフィシャルホテルに。宿泊者は、部屋から直接参加できるようになった。2020大会は新型コロナウイルスの影響で直前に中止。</p> <p>現在、大会当日だけでなく、年間通して笠戸島を訪れるランナーが増えており、住民とのコミュニケーションも積極的に行われている。今後も一過性の大会ではなく、アウトドアスポーツツーリズムとして着地型観光などの取り組みに力を入れていく。</p>
経済産業省 商務・サービス審議官賞	<p>作品名 応募者</p> <p>-With コロナ時代に適応したサイクルツーリズムの新しい形- 次世代観光サイクリングMAPアプリ「ツール・ド」 一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン (東京都新宿区)</p>
	<p>作品の概要</p> <p>弊社は全国の地方自治体と連携し「サイクルツーリズム」を活用した地方誘客事業を行っています。当初は主に「サイクリングイベント事業」を行っており、主催事業「ツール・ド・ニッポン」は「第5回スポーツ振興賞」も受賞しました。イベント事業での単日的誘客に成功した私達は、次の課題として、「イベントに依存しないサイクリストの通年的な誘客」に着手しました。その課題の解決施策が、今回の応募事業「次世代観光サイクリングMAPアプリ『ツール・ド』」です。</p> <p>「ツール・ド」は、走行中のコースナビ機能、「ご当地スポット」へのチェックイン機能、オリジナルフォトフレームでの記念写真機能、ゴール後の完走証発行機能等があります。サイクリング観光に特化したスマホアプリです。2018年10月のローンチ以来多くのサイクリストに利用され、現在1.2万ダウンロード、1年間の走行回数11,872回(2019年4月～2020年3月)。</p> <p>また多くの自治体で誘客施策として導入され、現在登録コース数は350。この夏には全国連携企画「サイクルボール-日本7大1周制覇の旅-」を立ち上げました。2020年「新型コロナ禍」を迎え、人が集まるイベントは開催しづらい状況が続く中、当アプリを活用した事業はウィズコロナ時代にも適した誘客施策としても注目を集めています。</p>
日本商工会議所 奨励賞	<p>作品名 応募者</p> <p>有馬-六甲 Virtual Ride Race 有馬-六甲 Virtual Ride Race 実行委員会 (兵庫県神戸市)</p>
	<p>作品の概要</p> <p>「有馬-六甲 Virtual Ride Race」は、インドアサイクリングアプリ「Rouvy (ルービー)」を利用し、有馬温泉～六甲山頂約15kmのサイクリングコースを日本初のARコースとして作成し、全世界から同時にオンラインを通じて参加可能となったアジア初のフィジカルeスポーツイベントです。</p> <p>①有馬～六甲山のサイクルツーリズムの促進、②フィジカルeスポーツの体験を通じたスポーツ実施率の向上、③イベント開催を通じた有馬温泉の賑わいを創出することを目的に企画を進め、地元企業の連携・協働によって実行委員会を立ち上げ、イベント開催に至りました。</p> <p>当日は①エキシビジョンレースに4名、②ヴァーチャルヒルクライムレースに109名(うち海外参加者59名)が参加し、レースの様子はYouTubeを通じてリアルタイムで配信。ヴァーチャルヒルクライムレースでは、イベント会場となった「BARDE GOZAR」にて、実際にプロのサイクリストや競輪選手がレースに参加するなど、リアルとバーチャルを融合させた画期的なイベントとなりました。今後は継続的なイベント開催やヒルクライムツアーを実施するとともに、有馬温泉でのサイクリスト向けの拠点整備を進め、サイクルツーリズムの促進に取り組みます。</p>
日本スポーツ	<p>作品名 応募者</p> <p>BOSO (房総 × 防草) 草刈 サミット ～スポーツ×草刈 で地域課題解決プロジェクト～ 一般社団法人ウェルネススポーツ 鴨川 (千葉県鴨川市)</p>
	<p>作品の概要</p> <p>過疎化による後継者不足等で耕作放棄地が増加し、繁茂した草木が有害鳥獣の温床になり、深刻</p>

<p>ツ ー リ ズ ム 推 進 機 構</p> <p>会 長 賞</p>	<p>な農作物被害が発生しています。耕作放棄地の草刈作業にスポーツ要素をかけ合わせ、重労働を前向きにポジティブに取り組もうという逆発想です。ネガティブな印象の強い草刈をスポーツととらえ、スポーツのもつ「楽しみ」や「競技性」の要素を加えた、スポーツ×草刈を考案しました。2018年に発足。戦前には「大日本草刈選手権大会」が東京で開催されていました。</p> <p>安全性を重視し、スピードではなく、仕上がりの美しさを競うルールを設定。賞品を用意し、スポーツ大会の雰囲気を醸すべく、実況や解説、BGMを投入しました。“選手”は日常の農作業には少ない、スポーツ独特の爽快感、充足感を味わいました。NHKの朝の情報番組でも取り上げられ、マスコミの注目も集めました。JTBのCSR事業「地球いきいきプロジェクト」にスポーツ×草刈が採用されました。草刈のスポーツ効果を検証すべく、地元大学研究チームの協力による草刈作業の筋活動などの計測、実証を行う予定です。今後、農業関係スポンサーを募り、常設型の「BOSO草刈リ〜グ」を創設し、全国大会・国際大会の開催も計画し、スポーツの力による地域課題解決の新たなモデルを創出したい。</p>	
<p>ス ポ ー ツ 健 康 産 業 団 体 連 合 会</p> <p>会 長 賞</p>	<p>作品名 応募者</p>	<p>国際バスケットボール連盟 正式競技 3人制バスケットボール「3x3」 宇都宮市でクラブチーム世界一最終決定戦またオリンピック出場国発表記念イベントを同時開催 FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019 実行委員会 (栃木県宇都宮市)</p>
<p>作品の概要</p> <p>FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019 実行委員会は、2016年から国際バスケットボール連盟(FIBA)が主催する「3人制バスケットボール」のクラブチーム世界一決定戦「FIBA 3x3 World Tour」を、約1600年にわたって宇都宮の街を見守り、歴史・文化と近代的な街並みが融合したロケーションの「宇都宮二荒山神社」を舞台に誘致し、「3x3のまち、宇都宮」をスローガンに掲げ、多くの宇都宮市民及び県外・国外から集まった人々へ世界最高峰の戦いを体感できる機会の提供と、宇都宮市の食や文化、魅力を世界へ発信してきました。</p> <p>2019年度は宇都宮市での初めての「3x3」クラブチーム世界一最終決定戦「FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019」に加えて「オリンピック出場国発表記念イベント」を開催。人々の注目が集まる中、2日間で延べ約7.8万人が観戦に訪れ、経済波及効果は約5.6億円を記録致しました。</p> <p>また、市内小中学校への3x3公式球の配布や屋外バスケットゴールの設置、「U12 3x3 宇都宮市長杯」の開催、更には大会出場選手が小学校を訪問し、子どもたちとの交流を行う学校訪問事業など、3人制バスケットボールを通して子どもたちがスポーツに親しみやすい環境づくりにも積極的に取り組んでおります。</p>		